



# 2022年3月期 第2四半期 決算発表

2021年11月11日

**TBS** 株式会社

# 目次 1 / 2

## 1. 連結決算

- (1) 連結対象会社
- (2) 連結経営成績
- (3) セグメント別業績
- (4) 連結財政状態
- (5) 連結キャッシュフロー
- (6) その他の情報
- (7) 2022年3月期の連結・個別業績予想

# 目次 2 / 2

## 2. 単体決算

(1) 単体決算

(2) 特別損失に関する説明

(3) 個別財政状態

(参考) J N C(株)連結業績

J N C(株)個別業績

J N C(株)2022年3月期の業績予想

# 1. 連結決算

# 1. 連結決算 (1) 連結対象会社

連結子会社27社、持分法適用会社18社の計45社

連結子会社 27社		
JNC	オージェイケイ	商事事業
機能材料事業	JNCフィルター	日祥
JNCマテリアル	広州ES繊維	電力事業
CSエナジーマテリアルズ	捷恩智無紡材料(常熟)	市原ソーラー
韓国JNC	捷恩智繊維貿易(上海)	白川クリーンエネルギー
台湾捷恩智股份	JNC Nonwovens (Thailand)	白川SPC1
捷恩智液晶材料(蘇州)		白川SPC2
加工品事業	化学品事業	その他の事業
JNCファイバース	JNC石油化学	JNCエンジニアリング
九州化学工業	千葉ファインケミカル	捷恩智(上海) 企業管理
ジェイカムアグリ	JNC North America Corp	
JNC開発	JNC America	
持分法適用会社 18社		
機能材料事業	ESFV ホールディングス	京葉ポリエチレン
第三化成	ESFV (欧州)	シージーエスター
SK materials JNC	ESFV (香港)	その他の事業
SK JNC Japan	ESFV (タイ)	サンワ工事
加工品事業	ESFV (上海)	アール・ビー・エス
ESFV (日本)	ESFV (蘇州)	JNCセントラル
ESFV インク	化学品事業	
ESFV (米国)	日本ポリプロ	

# 1. 連結決算 (2) 連結経営成績

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	対前年増減
売上高	618億26百万円	660億69百万円	42億43百万円 (6.9%増収)
営業利益	17億66百万円	35億07百万円	17億41百万円 (98.6%増益)
経常利益	12億45百万円	66億79百万円	54億34百万円 (436.5%増益)
親会社株主に帰属 する当期純利益	△12億27百万円	109億74百万円	122億01百万円 (増益)

連結子会社の株式会社白川クリーンエナジーが所有する白川発電所のセール・アンド・リースバック取引により、固定資産売却益として101億03百万円を特別利益に計上いたしました。

## 参考) ナフサ価格の推移

2019年	4 ~ 6月	45,400円/KL
	7 ~ 9月	40,200円/KL
	10 ~ 12月	41,300円/KL
2020年	1 ~ 3月	44,800円/KL
	4 ~ 6月	25,000円/KL
	7 ~ 9月	30,200円/KL
	10 ~ 12月	31,300円/KL
2021年	1 ~ 3月	38,800円/KL
	4 ~ 6月	47,700円/KL
	7 ~ 9月	53,600円/KL

## 参考) 為替の推移

		期中平均	期末
2019年	1 ~ 3月	110.3円/USD	111.0円/USD
	4 ~ 6月	109.7円/USD	107.8円/USD
	7 ~ 9月	107.7円/USD	107.9円/USD
	10 ~ 12月	109.3円/USD	109.6円/USD
2020年	1 ~ 3月	109.1円/USD	108.8円/USD
	4 ~ 6月	107.4円/USD	107.7円/USD
	7 ~ 9月	105.3円/USD	105.8円/USD
	10 ~ 12月	104.0円/USD	103.5円/USD
2021年	1 ~ 3月	107.1円/USD	110.7円/USD
	4 ~ 6月	109.8円/USD	110.6円/USD
	7 ~ 9月	110.1円/USD	112.0円/USD

**(参考) 第2四半期決算  
連結売上高・経常利益推移 (2012年度～2021年度)**

(百万円)

年度	売上高	経常利益	年度	売上高	経常利益
2012年	96,118	3,178	2017年	75,317	2,954
2013年	111,075	6,723	2018年	73,201	243
2014年	85,353	7,159	2019年	73,383	△1,021
2015年	86,806	7,374	2020年	61,826	1,245
2016年	72,066	783	2021年	66,069	6,679



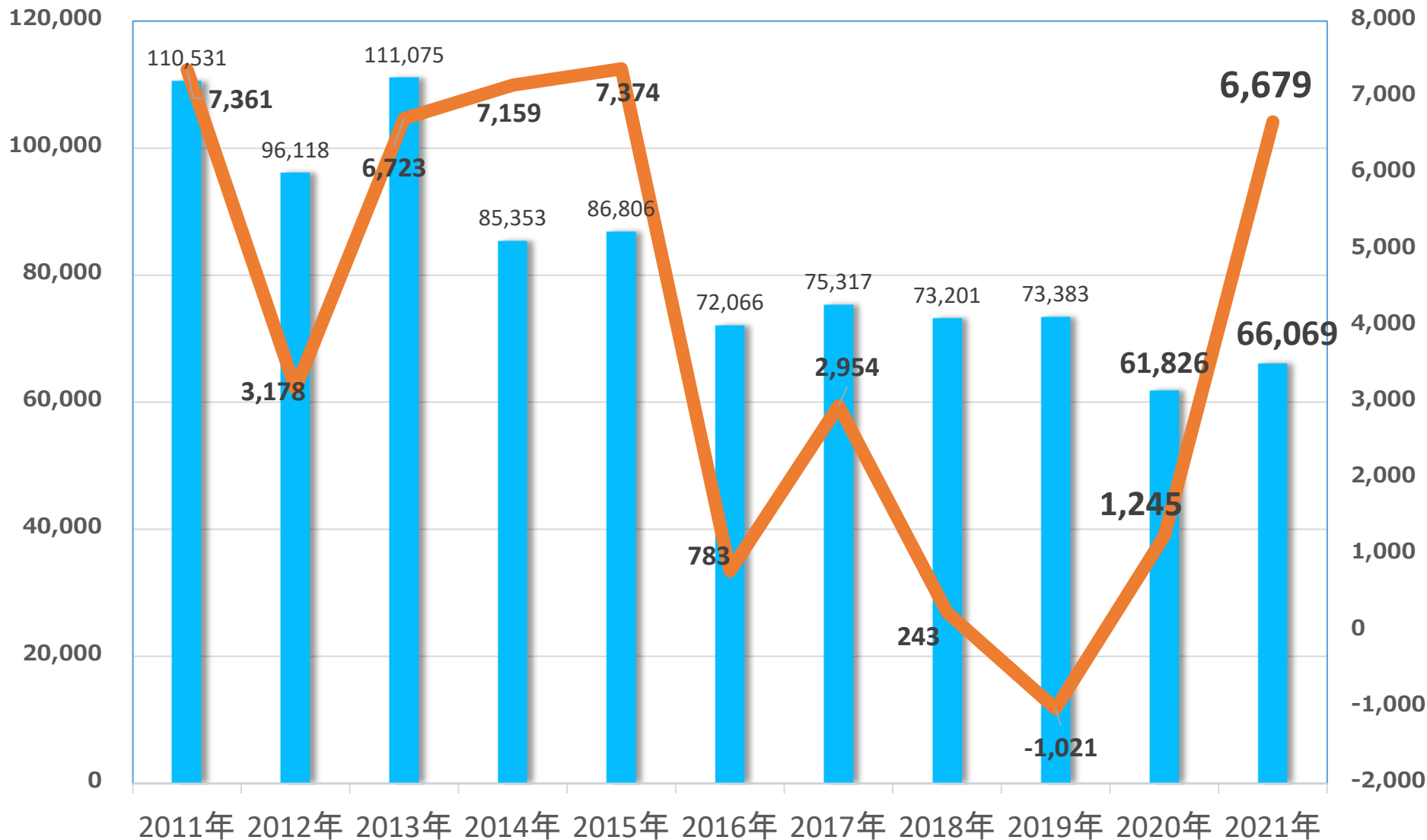
# (参考) 第2四半期決算 連結業績推移

売上高：百万円

■ 売上高

— 経常利益

経常利益：百万円



**(参考) 年度決算  
連結売上高・経常利益推移 (2011年度～2020年度)**

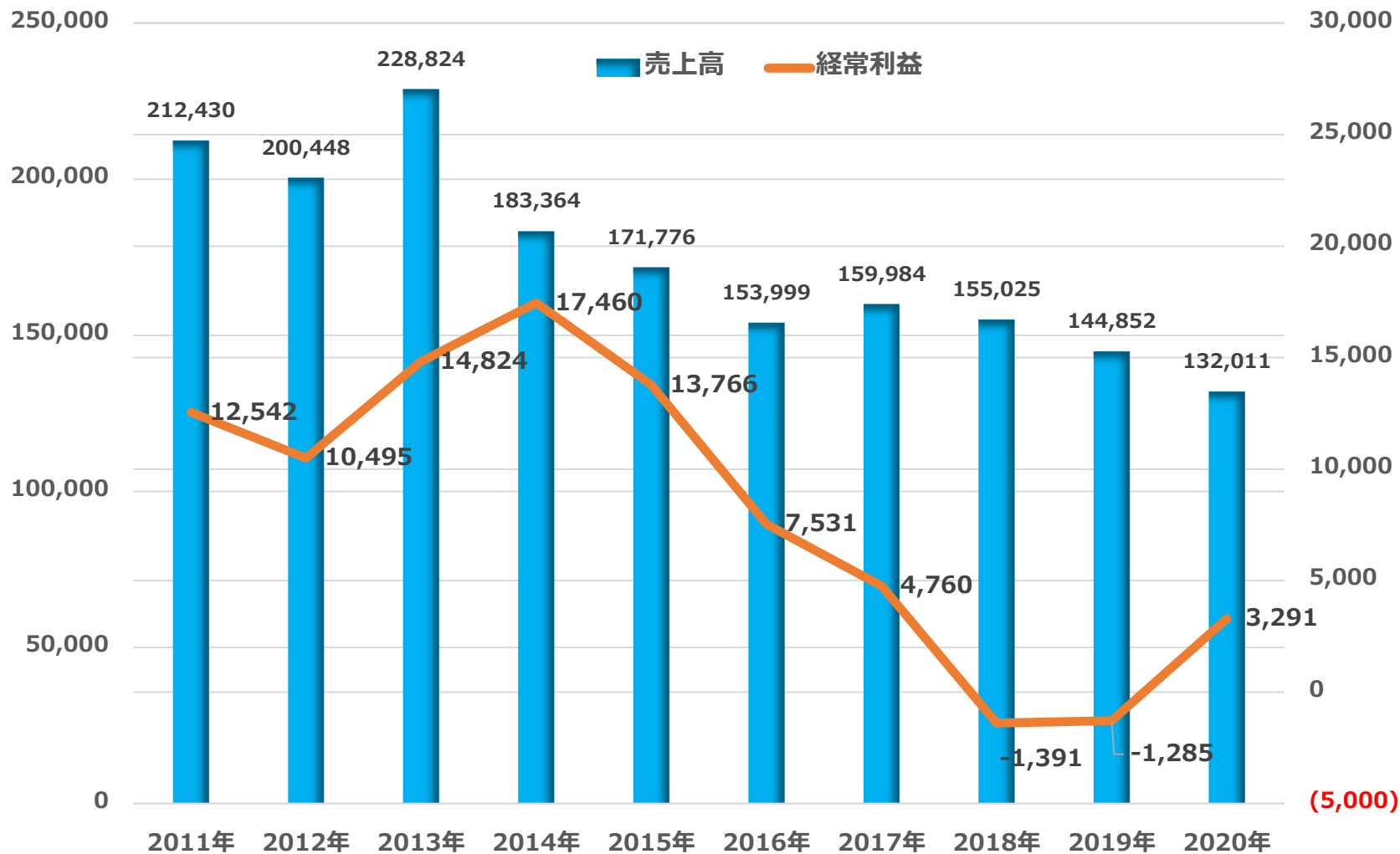
(百万円)

年度	売上高	経常利益	年度	売上高	経常利益
2011年	212,430	12,542	2016年	153,999	7,531
2012年	200,448	10,495	2017年	159,984	4,760
2013年	228,824	14,824	2018年	155,025	△1,391
2014年	183,364	17,460	2019年	144,852	△1,285
2015年	171,776	13,766	2020年	<b>132,011</b>	<b>3,291</b>

# (参考) 年度決算 連結業績推移 (2011年度～2020年度)

売上高：百万円

経常利益：百万円



# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

単位：百万円

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
機能材料	11,523	13,206	1,683	15%
加工品	26,211	27,135	924	4%
化学品	9,104	15,909	6,805	75%
商事	8,151	4,056	△4,095	△50%
電力	3,833	2,888	△945	△25%
その他	3,003	2,872	△131	△4%
<b>連結売上高</b>	<b>61,826</b>	<b>66,069</b>	<b>4,243</b>	<b>7%</b>
	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
機能材料	△886	△55	831	—
加工品	1,410	1,563	153	11%
化学品	△981	4,127	5,108	—
商事	146	185	39	27%
電力	2,138	1,428	△710	△33%
その他	△582	△570	12	—
<b>連結経常利益</b>	<b>1,245</b>	<b>6,679</b>	<b>5,434</b>	<b>436%</b>

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 機能材料事業（液晶材料等）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
連結売上高	115億23百万円	132億06百万円	16億83百万円	15%
連結経常利益	△8億86百万円	△55百万円	8億31百万円	－%

- 液晶材料は、新型コロナウイルス感染症に起因するテレワークの普及等から始まった液晶ディスプレイの底堅い需要の継続により、TV 用液晶及びPC モニター等のIT 用液晶の販売が好調となりました。
- シリコン製品は、プリント基板用途を中心に需要が好調に推移しました。

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 加工品事業（繊維製品、肥料）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
連結売上高	262億11百万円	271億35百万円	9億24百万円	4%
連結経常利益	14億10百万円	15億63百万円	1億53百万円	11%

- 繊維製品は、国内において除菌シートやマスクなどの新型コロナウイルス感染症対策関連用途で在庫調整の影響を受けたほか、中国においても衛生材料製品の市況が低迷したことから、原綿及び不織布の出荷が総じて低調となりました。
- 肥料は、海外向けの出荷が輸送用コンテナ不足などの影響により減少しましたが、国内販売では肥料価格値上げ前の先取り需要により、化成肥料を中心に出荷が好調となりました。
- 収益認識基準影響額 売上△955百万円

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 化学品事業（アルコール、樹脂等）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
連結売上高	91億04百万円	159億09百万円	68億05百万円	75%
連結経常利益	△9億81百万円	41億27百万円	51億08百万円	－%

- オキシアルコールは、原料ナフサ価格の高騰により販売価格が上昇したことや、市場のタイト感から国内需要が堅調に推移したことに加えて、中国を中心とした旺盛なアジア需要によって輸出が好調となり、売上は増加しました。また、新型コロナウイルス感染症対策関連の需要が伸長し、ワクチン製剤の精製工程で使用される液体クロマトグラフィー用充填剤のインド、欧米向けの販売が好調となりました。
- ポリプロピレンは、主力の自動車関連において半導体の供給不足による減産の影響を受けたものの、全体的には新型コロナウイルス感染症の影響から持ち直しつつあり、出荷は増加しました。
- 経常利益には、日本ポリプロの海外グループ子会社の株式を売却したことにより発生した、持分法による投資利益約28億60百万円が含まれます。
- 収益認識基準影響額 売上△784百万円

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 商事事業

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
連結売上高	81億51百万円	40億56百万円	△40億95百万円	△50%
連結経常利益	1億46百万円	1億85百万円	39百万円	27%

- 商事事業は、主力のポリプロピレンでは、第1四半期に見られた好調な需要に一服感が見られたものの、総じて需要は底堅く推移し販売は増加しましたが、売上高は収益認識基準影響（△6,467百万円）があり減収となりました。



# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 電力事業

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
連結売上高	38億33百万円	28億88百万円	△9億45百万円	△25%
連結経常利益	21億38百万円	14億28百万円	△7億10百万円	△33%

- 電力事業は、F I T活用に向けた既存水力発電所の大規模改修工事を引き続き推進し、安定した収益基盤の強化に注力しました。残る3箇所の水力発電所についても、改修工事を計画的に進めました。
- 渇水および設備トラブルの影響により、対前年同期比では減収減益となりました。

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## その他の事業 (エンジニアリング等)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年度比	増減率
連結売上高	30億03百万円	28億72百万円	△1億31百万円	△4%
連結経常利益	△5億82百万円	△5億70百万円	12百万円	-%

- エンジニアリング事業は、国内案件の工事が順調に進捗したほか、コスト削減にも取り組み、新規案件の受注も増加するなど、総じて堅調に推移しました。

# 1. 連結決算 (4) 連結財政状態

	2021年3月期	2022年3月期 第2四半期	前連結会計 年度末比
総資産	2,386億44百万円	2,482億58百万円	96億13百万円 (4.0%)
総負債	3,692億06百万円	3,738億02百万円	45億95百万円 (1.2%)
純資産	△1,305億61百万円	△1,255億43百万円	50億17百万円
自己資本比率	△59.8%	△53.4%	—
1株当たり純資産	△916円37銭	△851円92銭	—

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ96億13百万円増加し、2,482億58百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて45億95百万円増加し、3,738億02百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金、未払金の増加によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、利益剰余金が増加した一方、非支配株主持分が減少し、前連結会計年度末に比べて50億17百万円増加し、△1,255億43百万円となりました。

# 1. 連結決算 (5) 連結キャッシュフロー

## 営業活動によるキャッシュ・フロー (72億64百万円)

営業活動によって得られた資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ21億59百万円 (42.3%) 増加し72億64百万円となりました。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー (81億14百万円)

投資活動によって調達された資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ141億30百万円増加し81億14百万円となりました。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー (7億68百万円)

財務活動によって使用された資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ30億05百万円 (79.6%) 減少し7億68百万円となりました。

# 1. 連結決算 (5) 連結キャッシュフロー

## 水俣病補償によるキャッシュ・フロー (7億84百万円)

	患者医療費等	7億84百万円
	公的債務返済	0百万円
	解決一時金返済	－百万円
	救済一時金返済	－百万円
	計	7億84百万円

## 現金及び現金同等物期末残高

423億12百万円 (前年度末比186億77百万円増加)

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 水俣病被害者への一時金の支払について

水俣病被害者救済等のための「特別措置法」（平成21年法律第81号）及びその救済措置の方針に基づく、当社の2021年4月1日から2021年9月31日までの一時金支払はありませんでした。

2014年8月29日に環境省より、救済措置対象者の判定が熊本県及び鹿児島県で終了した旨の公表がなされておりますが、一時金支払いは継続しております。

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 水俣病訴訟の提起について

水俣病に罹患しているとする原告から、当社、国及び熊本県に対して熊本地方裁判所及び東京地方裁判所、大阪地方裁判所に損害賠償請求訴訟が提起されております。

2013年6月20日以降数次にわたり、2021年9月30日までに水俣病不知火患者会に属する原告等合計1,618名から行なわれた提訴の損害賠償請求金額は合計72億81百万円となっております。

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 水俣病訴訟の控訴提起について

2007年10月11日に水俣病被害者互助会に属する8名の原告（第一審原告）から、当社、国及び熊本県に対して熊本地方裁判所へ提起された損害賠償請求訴訟について、2014年3月31日に原告3名の請求の一部を認容する判決があり、当社はこの判決を不服として福岡高等裁判所に控訴し、また、原告側も控訴しておりました。この控訴審について2020年3月13日に判決があり、第一審判決の被告である当社及び国、熊本県の敗訴部分を取り消し、第一審原告らの各請求、各控訴及び控訴審における拡張請求のいずれも棄却するものとなりました。

なお、第一審原告らはこの判決を不服とし、2020年3月23日に最高裁判所へ上告を行なっております。



# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 中国における子会社の新設分割について

当社連結子会社の捷恩智液晶材料（蘇州）有限公司は、中国国内における液晶ディスプレイ材料の研究や液晶組成物製造、販売等を行ってまいりましたが、2021年12月を予定として更なる事業強化を目的に、製造会社と研究開発機能及び営業に特化した会社（仮称：捷恩智液晶科技（蘇州）有限公司）に分割（新設分割）することとしました。

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 当社子会社の固定資産の譲渡及び同資産のリースによる賃借について

当社連結子会社のJNC株式会社は、同じく連結子会社の株式会社白川クリーンエナジーに対し、2021年6月1日付で吸収分割により白川発電所を承継させた後、2021年7月1日付で資産の有効活用及び財務体質の強化を目的に、白川発電所をみずほリース株式会社が100%出資する白川ウォーターパワー・リーシング有限会社に譲渡しました。また、譲渡後も当社グループで白川発電所の管理運営を続けるため、当該資産に関する賃貸借契約（セール・アンド・リースバック取引）を同日付で締結しました。

# 1. 連結決算（7）2022年3月期の 連結・個別業績予想

## ① チッソ連結業績予想

売上高 1,330億円

経常利益 74億円

親会社株主に帰属する当期純利益 - 億円

## ② チッソ個別業績予想

売上高 - 億円

経常利益 16億円

当期純利益 - 億円

通期（連結）の親会社株主に帰属する当期純利益及び通期（個別）の当期純利益につきましては、水俣病関連損失の予想が困難であることに加え、当社グループは「2020～2024年度 中期計画 ～ 業績改善のための計画～」に沿って事業構造改革に取り組んでおり、各施策の実施にあたっては 今後、特別利益・特別損失が発生する可能性があることから、現時点において適切な予想値を算出することは困難であると判断し、引き続き未定としております。

## 2. 单体決算

## 2. 単体決算 (1) 単体決算

**売上高**：JNCへ事業移管によりゼロであります。

**営業利益**：1億74百万円の損失

チツソのコーポレート部門の人件費及び経費が発生しています。

**経常利益**：2億84百万円の損失

営業外費用として金融機関への支払利息、患者センター及び水俣病被害者救済支援財団の運営費用が発生しています。

**純利益**：12億98百万円の損失

## 2. 単体決算 (2) 特別損失に関する説明

特別損失および未処理損失は次の通りです。

億円単位未満切捨て

特別損失		14億71百万円
水俣病被害者救済一時金		0百万円
水俣病補償関係		14億71百万円
(内訳)	補償金等	7億84百万円
	公的融資金利	36百万円
	解決一時金金利	1億14百万円
	救済一時金金利	5億37百万円

未処理損失		1,899億円
(内訳)	水俣病関係損失累計額	4,125億円
	事業活動による利益	2,225億円

## 2. 単体決算 (2) 特別損失に関する説明

<b>認定患者</b>		0名
<b>公的債務残高の状況 (2021年9月末)</b>		<b>1,982億円</b>
(内訳)	元本	1,908億円
	金利	74億円
※億円未満切捨て		
<b>当期の公的債務返済状況</b>		
全額支払猶予措置を講じていただいています。		

## 2. 単体決算 (3) 個別財政状態

	2021年3月期	2022年3月期 第2四半期	前年度末比
総資産	626億87百万円	630億56百万円	3億68百万円
純資産	△1,799億17百万円	△1,812億16百万円	△12億98百万円

- 総資産：主に現金預金の増加及び、未収法人税と未収配当金の減少によるものです。
- 純資産：当期純損失の分だけ純資産が減少しました。



## 参考. JNC(株)連結業績

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	対前年増減
売上高	618億26百万円	660億69百万円	42億43百万円 (6.9%増収)
営業利益	19億74百万円	36億82百万円	17億08百万円 (86.5%増益)
経常利益	15億57百万円	69億64百万円	54億07百万円 (347.3%増益)
親会社株主に帰属 する当期純利益	6億00百万円	122億73百万円	116億73百万円 (増益)

連結子会社の株式会社白川クリーンエナジーが所有する白川発電所のセール・アンド・リースバック取引により、固定資産売却益として101億03百万円を特別利益に計上いたしました。

## 参考. JNC(株)個別業績

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	対前年増減
売上高	239億76百万円	302億73百万円	62億96百万円 (26.3%増収)
営業利益	△7億14百万円	2億38百万円	9億53百万円 (増益)
経常利益	△56百万円	11億64百万円	12億21百万円 (増益)
純利益	△2億66百万円	△11億60百万円	△8億94百万円 (減益)

# 参考. JNC(株)2022年3月期の業績予想

## ① JNC連結業績予想

売上高 1,330億円

経常利益 80億円

親会社株主に帰属する当期純利益 -億円

## ② JNC個別業績予想

売上高 500億円

経常利益 25億円

当期純利益 -億円

通期（連結）の親会社株主に帰属する当期純利益及び通期（個別）の当期純利益につきましては、水俣病関連損失の予想が困難であることに加え、当社グループは「2020～2024年度 中期計画～業績改善のための計画～」に沿って事業構造改革に取り組んでおり、各施策の実施にあたっては 今後、特別利益・特別損失が発生する可能性があることから、現時点において適切な予想値を算出することは困難であると判断し、引き続き未定としております。

以上